

グラナダF 施工要領書

【ノコメゴテ仕様】

- ① シエラ S
- ② シエラ L
- ③ リュウ

【スタイロ板+コテ押え仕様】

- ④ ルシアワルツ
- ⑤ ルシアクルス
- ⑥ コスミック
- ⑦ ターナ
- ⑧ ワルツ

【仕上げコテ仕様】

- ⑨ ビエント
- ⑩ フィン
- ⑪ イタリック
- ⑫ マーブル
- ⑬ デコ
- ⑭ ビエントランダム

【コテ仕様】

- ⑮ スペニカ

【角コテ仕様】

- ⑯ エッジ

【角コテ+押えローラー仕様】

- ⑰ クラスター

【コテ+左官刷毛仕様】

- ⑱ リネア

【吹付け+押えローラー仕様】

- ⑲ スタッコ押え
- ⑳ プチ押え

【吹付け+コテ仕様】

- ㉑ カスタード(目地入り)
- ㉒ バレアル

【各種模様ローラー仕様】

- ㉓ アンデス
- ㉔ クレー
- ㉕ プリーツ
- ㉖ バリエブロック

【各種模様ローラー+押えローラー】

- ㉗ ブルーム
- ㉘ ピレネス
- ㉙ クリーク

【吹付け】

- ㉚ ゆず肌
- ㉛ フラット
- ㉜ プチ
- ㉝ リシン
- ㉞ じゅらく

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け ノコモゴテ(5.0mm)

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.0~3.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	5mmノコ目状刻みのノコモゴテ5、又はノコ目ヘラを使用し、所定の意匠になるようにする。						追っかけ 模様付け ノコモゴテ(5.0mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのぼらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

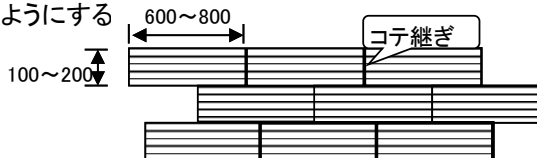
3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

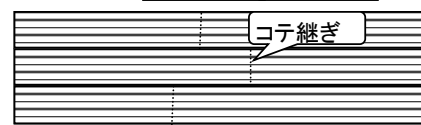
4. パターン付け

- ①パターン付けは、5mmキザミのノコモゴテ5を使用する。コテの継ぎ方により仕上がり感が異なるので、あらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。

- i) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続の馬踏み調とする方法。この方法は、コテの継ぎ目を意匠とし、ムラに見えないようにする技法。丁寧な作業が必要。



- ii) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続だが継ぎ目を目立たなくし、横方向には連続のイメージで仕上げる方法。継ぎ部分が目立たないように丁寧にコテを運ぶ。



- ②継ぎ部分が目立つ場合、串目6コマ刻み程度の小道具でタッチアップして整える。
- ③表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。

5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け ノコモゴテ(7.5mm)

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.5~4.0	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	7.5mmノコ目状刻みのノコモゴテ7.5、又はノコ目ヘラを使用し、所定の意匠になるようにする。						追っかけ 模様付け ノコモゴテ(7.5mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

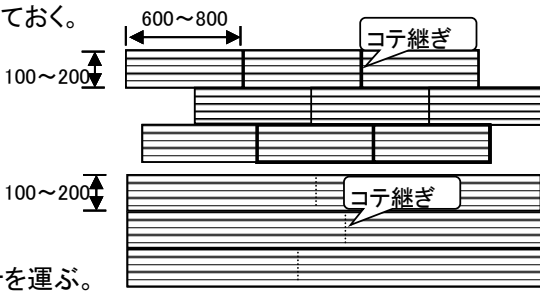
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、7.5mmキザミのノコモゴテ7.5を使用する。コテの継ぎ方により仕上がりが異なるので、あらかじめ設計担当者に確認を行っておく。
 - i) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続の馬踏み調とする方法。この方法は、コテの継ぎ目を意匠とし、ムラに見えないようにする技法。丁寧な作業が必要。
 - ii) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続だが継ぎ目を目立たなくし、横方向には連続のイメージで仕上げる方法。継ぎ部分が目立たないように丁寧にコテを運ぶ。



- ② 継ぎ部分が目立つ場合、串目6コマ刻み程度の小道具でタッチアップして整える。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。

5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材5厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	ノコメゴテ(5.0mm)

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレスプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.0~3.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材5厘	15kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	5mmノコ目状刻みのノコメゴテ5、又はノコ目ヘラを使用し、所定の意匠になるようにする。					追っかけ	ノコメゴテ(5.0mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

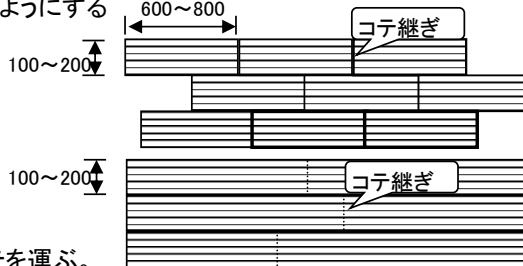
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、5mmキザミのノコメゴテ5を使用する。コテの継ぎ方により仕上がり感が異なるので、あらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
 - i) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続の馬踏み調とする方法。この方法は、コテの継ぎ目を意匠とし、ムラに見えないようにする技法。丁寧な作業が必要。
 - ii) ノコ目付けは、横方向とし、且、不連続だが継ぎ目を目立たなくし、横方向には連続のイメージで仕上げる方法。継ぎ部分が目立たないように丁寧にコテを運ぶ。
- ② 継ぎ部分が目立つ場合、串目6コマ刻み程度の小道具でタッチアップして整える。
- ③ 表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ④ルシアワルツ 骨材の転がり跡が、ワルツを連想。ルシアは女性の名。ワルツは円舞曲。

●使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋
専用骨材7厘	20kg/紙袋
専用骨材黒ゴマ	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ+硬質スタイロ板+コテ

●標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3.0	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘	8kg					
	専用骨材7厘	4kg					
	専用骨材黒ゴマ	2kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用し表面を円弧状に骨材を転がして意匠付けをする。 バリなどは、軟らかめのコテで表面を整える。					追っかけ 模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

●標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

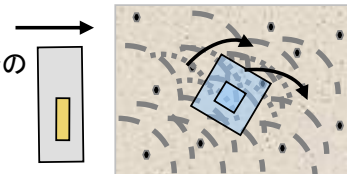
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240~270mm程度のコテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を円弧状に動かしながら意匠付けする。
- ②続いて、表面のバリや引き摺りをコテで軽く押えて整える。パターンは塗布量の多少により骨材の転がりの仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤横に筋を描くように硬質スタイロ板を運び、こまめに、板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながらか意匠付けする。
- ⑥骨材の転がりの弧状模様はランダムさを持たせる。
- ⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

●使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋
専用骨材7厘	20kg/紙袋
専用骨材黒ゴマ	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ+硬質スタイロ板+コテ

●標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイプライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3.0	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘	8kg					
	専用骨材7厘	4kg					
	専用骨材黒ゴマ	2kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用し表面を縦と横方向に骨材を転がして意匠付けをする。バリなどは、軟らかめのコテで表面を整える。					追っかけ 模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

●標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

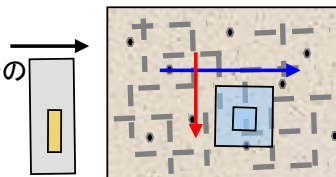
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240~270mm程度のコテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を縦と横に動かしながら意匠付けする。
- ②続いて、表面のバリや引き摺りをコテで軽く押えて整える。パターンは塗布量の多少により骨材の転がりの仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤横に筋を描くように硬質スタイロ板を運び、こまめに、板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながらか意匠付けする。
- ⑥骨材の転がりの線状模様はランダムさを持たせる。
- ⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋
専用骨材3厘	20kg/紙袋
専用骨材8厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ+硬質スタイロ板+コテ

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り コテ塗り					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.0~3.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	4kg					
	専用骨材3厘	6kg					
	専用骨材8厘	3kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用し表面を横方向に骨材を転がして意匠付けをする。 バリなどは、軟らかめのコテで表面を整える。					追っかけ 模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

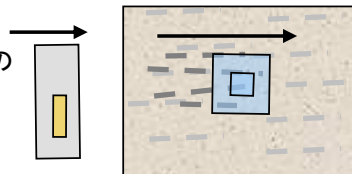
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240~270mm程度のコテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を横に動かしながら意匠付けする。
- ②続いて、表面のバリや引き摺りをコテで軽く押えて整える。パターンは塗布量の多少により骨材の転がりの仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤横に筋を描くように硬質スタイロ板を運び、こまめに、板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながら意匠付けする。
- ⑥骨材の転がりの線状模様はランダムさを持たせる。
- ⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋
専用骨材3厘	20kg/紙袋
専用骨材5厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ+硬質スタイロ板+コテ

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水 吹付け塗り コテ塗り	1~2kg 0~0.5kg	-				
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	6kg					
	専用骨材3厘	2kg					
	専用骨材5厘	10kg					
	清水	0~0.75kg	-				
パターン 付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用し表面をややひねるように骨材を動かして意匠付けをする。バリなどは、軟らかめの角ゴテで表面を整える。					追っかけ 模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

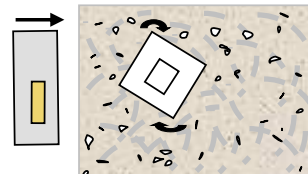
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240~270mm程度の角ゴテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を手首をややひねる様に運びながら意匠付けする。
- ②続いて、表面のバリや引き摺りを角ゴテで軽く押えて整える。パターンは塗布量やコテの動かし方によって骨材の転がりの仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤手首をややひねる様に硬質スタイロ板を運び、こまめに板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながらか意匠付けする。
- ⑥骨材の転がり模様はランダムさを持たせる。
- ⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋
専用骨材7厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ+硬質スタイロ板+コテ

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイプライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	5kg					
	専用骨材7厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り均し後、硬質スタイロ板などを使用し表面を円弧を書くように骨材を転がして意匠付けをする。バリなどは、軟らかめのコテで表面を整える。					追っかけ 模様付け	硬質スタイロ板 コテ(押え)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

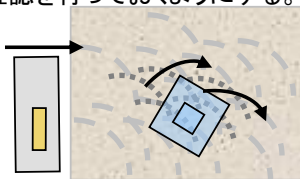
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一に混ぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:240~270mm程度のコテを使用してしごく様に均し、続いて150mm角程度の硬質スタイロ板を弧状に廻しながら意匠付けする。
- ②続いて、表面のバリや引き摺りをコテで軽く押えて整える。パターンは塗布量の多少により骨材の転がりの仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤弧を描くように硬質スタイロ板を運び、こまめに、板に付着のネタを濡れウエスで清浄にしながらい匠付けする。
- ⑥骨材の転がりの弧状模様はランダムさを持たせる。
- ⑦骨材の転がりの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材1厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け 仕上げゴテ

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	5kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、仕上げゴテなどを使用し、横方向に風の流れに似せて意匠付けをする。 適度にコテ継ぎを作る。						追っかけ 模様付け (L:210~240mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

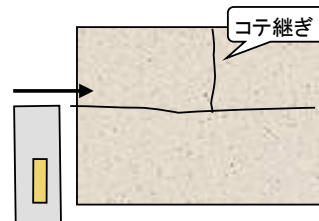
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:210~240mm程度の仕上げゴテなどを使用して、風の流れを形にした様に横にコテ継ぎ跡を付け意匠付けする。
- ② パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③ 表面皮張りが早い為、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、段毎にコテ幅(高さ)200mm程度の間隔とし、横方向には適度にコテ継ぎ付けとする。
- ⑥ 各段のコテ跡は、丁寧にコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタックガン又はコテ
 模様付け 仕上げゴテ

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタックガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、仕上げゴテなどを使用し、斜めに鱧のヒレに似せて意匠付けをする。					追っかけ 模様付け	仕上げゴテ (L:180~240mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-		24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

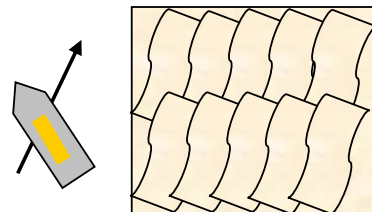
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は、定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:210~240mm程度の仕上げゴテを使用して、鱧のヒレの形の様に右斜めに跳ね上げて意匠付けする。
- ② パターンの大きさ、フィンの頭揃えなどにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。標準は頭揃えとする。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ フィンを描くようにコテを運び、次ぎの段はフィンとフィンの間を狙って意匠付けする。
- ⑥ コテ使いは、コテの先端でコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦ パターンの頭が傾かないように、壁全体のバランスを整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F **⑪イタリック** イタリックは斜体文字のこと。斜体でS字をコテで連続に描くようにしてできる意匠。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り リシンガン又はコテ
 模様付け 仕上げゴテ

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	1.6~2.0	1	-		リシンガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、仕上げゴテなどを使用し、斜体でややランダムにS字を描くように意匠付けをする。					追っかけ 模様付け	仕上げゴテ (L:210~240mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

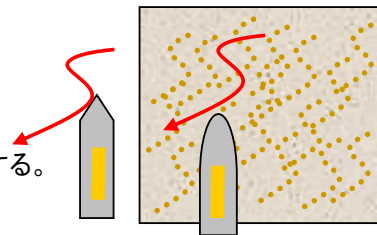
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は、定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:210~240mm程度の仕上げゴテや丸ゴテなどを使用して、少しみだれた風の流れを形にした様に横にコテ継ぎ跡を付け意匠付けする。
- ② パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、20~30cm程度の間隔でコテ跡をゆるやかに斜体のS字を描くようにして意匠付けする。
- ⑥ 各段のコテ跡は、ややランダムにコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 (2色組合せ)

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り兼
 模様付け 仕上げゴテ

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料		調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
						工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE		15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF		20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り コテ塗り	1~2kg 0~0.5kg					
模様塗り 兼 パターン 付け	グラナダF (2色組合せ)		20kg	1.6~2.0	1	配り塗り 兼 模様付け		仕上げゴテ (L:210~240mm)
	清水		0~0.5kg					
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

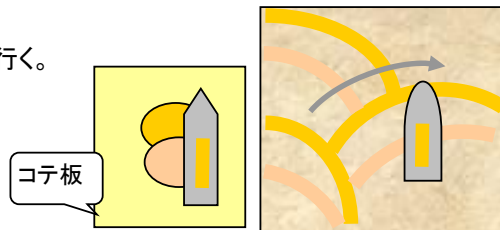
- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り兼パターン付け

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ② 主材(各色)は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗り兼パターン付けは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。
- ④ まず、2色の材料をコテ板に乗せ、2色同時にコテで2~3回軽くこねる。
- ⑤ パターン付けは、コテL:210~240mm程度の仕上げゴテや丸ゴテなどを使用して、2色の材料を同時にコテに乗せ、コテ跡を円弧状に付けて、ややランダムな連波様の混色の意匠付けをする。
- ⑥ パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ⑦ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ⑧ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑨ 各コテ跡は、丁寧にコテ跡を付けていくようにする。
- ⑩ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋
 専用骨材8厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け 仕上げゴテ

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間 (hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	—	6以上	リシガン 口径: 4~6mm 吹圧: 0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	4.0~4.5	1	—		スタッコガン 口径: 8~10mm 吹圧: 0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘	5kg					
	専用骨材8厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン付け	長さ210~240mm程度の仕上げゴテ又は丸ゴテを使用し、所定の意匠になるようにする。					追っかけ 模様付け	仕上げゴテ (L: 210~240mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				—	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				—	24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

1. 基層塗り

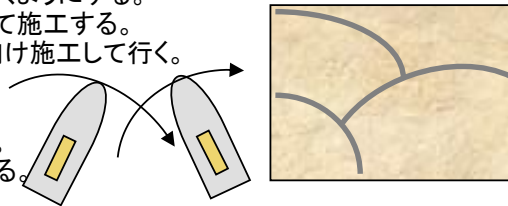
- ①開缶後缶壁に附着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤を使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

2. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

3. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで、コテL: 210~240mm程度の仕上げゴテ又は丸ゴテを使用して行う。
- ②コテの弧状跡付けはランダムを基本とするが、継ぎ方はにより仕上がり感が異なるので、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工に行く。
- ⑤弧を描くようにコテを運び、次の弧は途中で前の弧を塗り消すようにして意匠とする。
- ⑥各弧状模様は適度にランダムさを持たせる。
- ⑦模様の強弱は壁全体でバランス良く演出する。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材1厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け 仕上げゴテ

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	5kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン付け	材料配り均し後、仕上げゴテなどを使用し、横方向でランダムに風の流りに似せて意匠付けをする。適度にコテ継ぎを作る。						追っかけ 模様付け 仕上げゴテ (L:210~240mm)
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

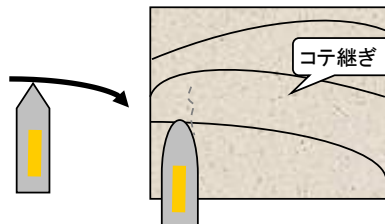
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:210~240mm程度の仕上げゴテなどを使用して、少しめだれた風の流りを形にした様に横にコテ継ぎ跡を付け意匠付けする。
- ②パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、肩幅程度の間隔でコテ跡をゆるやかにカーブさせ、横方向には適度にコテ継ぎ付けとする。
- ⑥各段のコテ跡は、丁寧にコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ(コテ尻幅65mm程度)

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイプライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材1厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、仕上げコテ等のコテ尻を使用し、ランダムに引っかけ様の意匠付けをする。						追っかけ 模様付け コテ尻幅65mm程度
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ② 主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:180~210mm程度の仕上げゴテや丸ゴテなどのコテ尻を使用して、ランダムにコテ跡を付け意匠付けする。
- ② パターンの大きさ、コテ継ぎの間隔などにより仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③ 表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、コテ尻幅60~70mm程度とし、引き摺り意匠の長さは75~125mm程度とする。
- ⑥ コテ跡は、ラフにコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ⑩エッジ スペインの塗り壁の中から大胆なエッジ状コテ塗り装飾仕上げを意匠パターンにしました。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋
専用骨材5厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
基層塗り	リシガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	角ゴテ

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料		調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
						工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE		15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF		20kg	0.8~1.0	1	—	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り	1~2kg					
模様塗り	グラナダF		20kg	3.5~4.0	1	—		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	専用骨材3厘		5kg					
	専用骨材5厘		10kg					
	清水		0~0.5kg					
パターン 付け	長さ240~270mm程度の角ゴテを使用し、所定の意匠になるように意匠付けをする。							追っかけ 模様付け
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。							直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。							24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

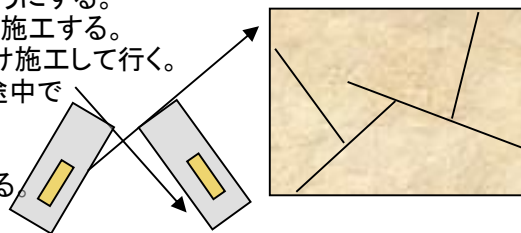
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

2. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

3. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで、コテL:240~270mm程度の角ゴテを使用して行う。
- ②コテのエッジ付けはランダムを基本とするが、継ぎ方はにより仕上がり感が異なるので、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤エッジを描くようにコテを運び、次のエッジは途中で前のエッジを塗り消すようにして意匠とする。
- ⑥各エッジ状模様はランダムさを持たせる。
- ⑦エッジの強弱は壁全体でバランス良く演出する。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシガン又はコテ
 模様塗り リシガン又はコテ
 模様付け 角ゴテ+押えローラー

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	1.6~2.0	1	-		リシガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、角ゴテをランダムに押し当て、引き離して材料を引き起こした後、塗シンをつけた押えローラーで凸部を押えて意匠付けをする。						追っかけ 模様付け (L:210~240mm) +押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

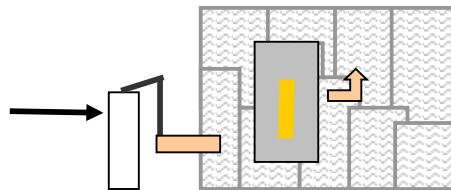
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

2. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

3. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、コテL:210-240mm程度の角ゴテをランダムに押し当て、引き離し材料を引き起こした後、塗シンをつけた押えローラーで意匠付けする。
- ②パターンの大きさ、押し当て間隔やランダムさなどにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ設計担当者に確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤角印を押すように角ゴテを押し当て、引き離し形作りした後、凸部を押えて意匠付けする。
- ⑥角ゴテは、コテの先端の2辺を特に強調してコテ跡を付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具****使用材料**

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシガン又はコテ
 模様塗り リシガン又はコテ
 模様付け 左官刷毛

● **標準施工仕様**

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	—	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	1.6~2.0	1	—		リシガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	材料配り均し後、左官刷毛で横方向に刷毛引き意匠付けする。刷毛継ぎは丁寧に且つ、継ぐ位置をずらしてムラに見えないようにする。						追っかけ 模様付け 吹付け配り時は、 コテ+左官刷毛
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				—	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				—	24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

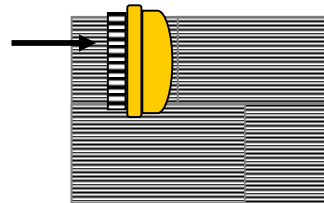
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

2. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻、大面積連続壁で意匠目地を必要とする場合は25mm幅の装飾養生をする。特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を塗り付ける。

3. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、金ゴテで配り塗りした場合は、次に左官刷毛で横方向に意匠付けする。ガンで配った場合は、コテで均してから刷毛意匠を付ける。
- ②パターンは、刷毛の種類や継ぎ間隔やランダムさなどにより仕上がり感が多少異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤左官刷毛は、横方向にほぼ平行にラインを引き、且つ継ぎはランダムな位置で丁寧に行う。
- ⑥刷毛は、時々水で洗い、水切して繰り返し使用する。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



4. 養生撤去

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ⑱スタッコ押え 吹き付けスタッコ模様の押え意匠。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシガン
 模様塗り スタッコガン
 模様付け 押えローラー

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	1~2kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.0~3.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	専用骨材3厘	10kg					
	清水	0.4~0.8kg					
パターン 付け	材料を大玉模様吹き放し後、塗シンを付けた押えローラーで凸部を押えて、パターン付けする。						追っかけ 模様付け
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

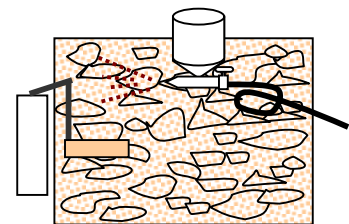
- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付ける。

3. 模様塗り

- ① 主材は定められた仕上がりになるように指定された骨材と清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ② 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を大玉吹き放し調に吹き付ける。
- ③ 希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ベタにならないように吹く。



4. パターン付け

- ① 押えのパターン付けは、模様塗り後、追っかけで行う。
- ② 塗シンを付けた押えローラーで、押えムラをつくらないようにバランス良く作業する。
- ③ 押えローラーは絶えず清浄にして、塗シンを付けて使用する。

5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ② 外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ⑳ プチ押え プチは小さいの意味。小玉吹き放し模様の押え意匠。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材1厘 20kg/紙袋
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン
 模様塗り タイルガン
 模様付け 押えローラー

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	—	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	1~2kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	1.4~1.6	1	—		タイルガン 口径:6~8mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	専用骨材1厘	5kg					
	清水	0.4~0.8kg					
パターン 付け	材料を小~中玉模様吹き放し後、塗シンを付けた押えローラーで凸部を押えて、パターン付けする。						追っかけ 模様付け
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				—		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				—	24以上	

● 標準施工要領

0. 注意点

- ① プチパターンは薄塗り仕上げであり、下地は平滑であること。
- ② プチパターンは薄塗り仕上げであり、下地は吸い込みムラのないこと。
- ③ プチパターンは薄塗り仕上げであり、乾燥が速いため、施工面積や、日光など考慮し、吹き継ぎムラがでないように施工する。

1. 下塗り

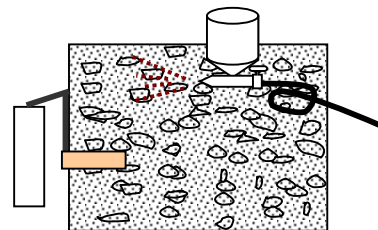
- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。

3. 模様塗り

- ① 主材は定められた仕上がりになるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ② 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を小~中玉吹き放し調に吹き付ける。
- ③ 希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ベタにならないように吹く。



4. パターン付け

- ① 押えのパターン付けは、模様塗り後、追っかけで行う。
- ② 塗シンを付けた押えローラーで、押えムラをつくらないようにバランス良く作業する。
- ③ 押えローラーは絶えず清浄にして、塗シンを付けて使用する。

5. 養生撤去

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ② 外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ㊦カスタード(目地入り)

カスタードクリーム風の風合いを連想する意匠の目地仕様。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
目地棒(幅8mm、厚2mm)	

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン又はコテ
模様付け	コテ

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り					
		コテ塗り	0~0.5kg				
目地割り+ 目地棒貼り	基層が乾燥後、H*W=600*900など、適度な寸法で馬目地又は芋目地の目地割付をする。 次ぎに目地割りに従い、目地棒を貼る。				-		基準墨は元請に依頼
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3.0	1	-		スタッコガン 口径:6~8mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り					
		コテ塗り	0~0.5kg				
パターン 付け	材料を配り塗り後、コテで表面を当て引きしながら、カスタードクリーム調にパターン付けする。					追っかけ 模様付け	コテ
目地棒撤去 養生撤去	目地棒、養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。

3. 目地割り・目地棒貼り

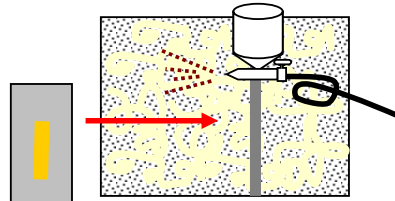
- ①基準墨を確認する。基本として元請に出してもらう。
- ②H*W=600*900など、適度な寸法で馬目地又は芋目地の目地割付をする。
- ③目地割りに従い、目地棒を貼る。

4. 模様塗り

- ①主材は定められた量の清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。
なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ②模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を配り塗りする。

5. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗り後、追っかけでコテで行う。
- ②コテで表面を当て引きしながらパターン付けする。
- ③パターンは、壁全体のバランスも考慮してコテで整える。



5. 養生撤去他

- ①目地棒・養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ②外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタッコガン
模様付け	コテ

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考	
					工程内	工程間		
下塗り	キクスイ プライマー スーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等	
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ	
	清水	吹付け塗り						1~2kg
		コテ塗り						0~0.5kg
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa	
	専用骨材3厘	10kg						
	清水	0.4~0.6kg						
パターン 付け	材料を大玉模様吹き放し後、角ゴテで凸部を横方向にしごく感じでパターン付けする。						追っかけ 模様付け	
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

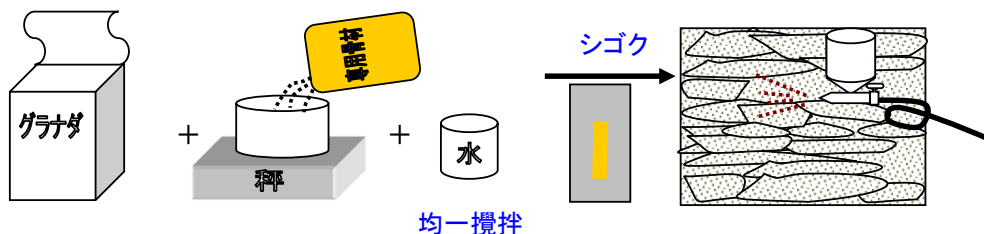
- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。

3. 模様塗り

- ① 主材は定められた仕上りになるように指定された骨材と清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ② 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を大玉吹き放し調に吹き付ける。
- ③ 希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ベタにならないように吹く。



4. パターン付け

- ① 標準として、角ゴテシゴキのパターン付けは、模様塗り後、追っかけで横方向に行う。
- ② 時々コテを水で清浄にし、引きムラをつくらないように作業する。
- ③ パターンは、壁全体のバランスも考慮してコテで整える。

5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ② 外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ㊦アンデス 凹凸大玉模様吹き出し後、谷の用に切り立たせた起伏のある意匠。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材 3厘	20kg/紙袋
5厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン
模様塗り	スタックガン
模様付け	バリエローラー

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考	
					工程内	工程間		
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等	
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ	
	清水	吹付け塗り						1~2kg
		コテ塗り						0~0.5kg
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3.0	1	-		スタックガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa	
	専用骨材 3厘	7.5kg						
	専用骨材 5厘	7.5kg						
	清水	0~0.5kg						
パターン 付け	凹凸大玉模様吹き出し後、バリエローラーを使用し、横方向に峡谷様の溝意匠付けをする。						追っかけ 模様付け	
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

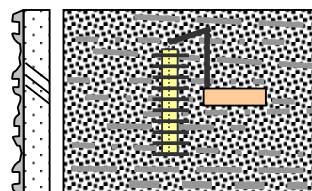
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸大玉模様で吹き付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。凹凸大玉模様吹き出し後、バリエローラーを使用し、横方向に峡谷様の溝意匠付けをする。
- ②吹付けパターンの大きさ、バリエローラーの転がし間隔、ランダムさなどにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは右側から左側に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、10~20mmの玉模様吹き出しの玉模様部分にランダムに3~4mm幅の峡谷様の溝が付加された意匠。
- ⑥溝跡は、ラフにランダムに付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材1厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン又はコテ
模様塗り	スタックガン又はコテ
模様付け	ウールローラー(中毛)

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	1~2kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.0~3.5	1	-		スタックガン 口径:8~10mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	専用骨材1厘	10kg					
	清水	0.4~0.6kg					
パターン 付け	材料を大玉模様吹き放し後、乾いたウールローラーで押えてパターン付けする。						追っかけ 模様付け
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● 標準施工要領

1. 下塗り

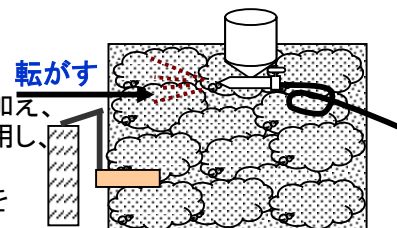
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。

3. 模様塗り

- ①主材は、定められた仕上りになるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ②模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を大玉吹き放し調に吹き付ける。
- ③希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ベタにならないように吹く。



4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗り後、追っかけで乾いたウールローラーで行う。
- ②時々清浄なウールローラーに交換し、引きムラをつくらないように作業する。
- ③パターンは、壁全体のバランスも考慮してウールローラーで整える。

5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ②外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン
 模様塗り スタックガン
 模様付け プリーツローラー (リブ幅5mm)

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考	
					工程内	工程間		
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等	
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ	
	清水	吹付け塗り						1~2kg
		コテ塗り						0~0.5kg
模様塗り	グラナダF	20kg	2.5~3.0	1	-		スタックガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa	
	専用骨材3厘	10kg						
	清水	0~0.5kg						
パターン 付け	凹凸状吹放し後、塗シを付けたプリーツローラーを横方向に重ねながら転がし、ランダムにひだ状意匠付けをする。					追っかけ 模様付け	プリーツローラー	
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後		
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上		

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

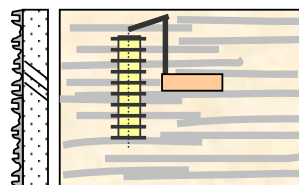
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸吹き放しで吹き付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。凹凸状吹放し後、プリーツローラーに塗シを付けて横方向に重ねながら転がし、ランダムにひだ状意匠付けをする。
- ②プリーツローラーの転がし間隔、重ね程度、ランダムさなどにより仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておく。
- ③表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、凹凸吹き放し部分が多少残る以外は、全て密にひだが重なりあった意匠。
- ⑥ひだの跡は、ラフにランダムに付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

Granada F ②6 バリエブロック バリエはスペイン語で峡谷の意味。ブロック調に起伏つけた意匠。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/プラペール缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン
模様塗り	スタックガン
模様付け	バリエブロックローラー

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg					
		コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	3.0~3.5	1	-		スタックガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa
	専用骨材3厘	10kg					
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	凹凸玉模様吹き放し後、バリエブロックローラーを使用し、ランダムに峡谷様の溝意匠付けをする。						追っかけ 模様付け ローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

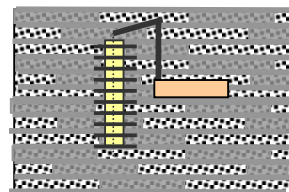
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸玉模様で吹き付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。凹凸玉模様吹き放し後、バリエブロックローラーを使用し、ランダムに峡谷様の溝意匠付けをする。
- ②吹付けパターンの大きさ、バリエブロックローラーの転がし間隔、ランダムさなどにより仕上がりが異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておくようにする。
- ③表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、10~20mmの玉模様吹き放しの玉模様部分にランダムに3~4mm幅の峡谷様の溝が付加された意匠。
- ⑥溝跡は、ラフにランダムに付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/角缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け PN-1ローラー (大塚刷毛製)
 + 押えローラー

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマー スーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り 1~2kg コテ塗り 0~0.5kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水	0~0.5kg					
パターン 付け	配り塗り後、PN-1ローラーで斜め方向にクロスさせ、引起こし、更に、塗シンを付けた押えローラーで押え、意匠形成する。					追っかけ 模様付け	PN-1ローラー + 押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

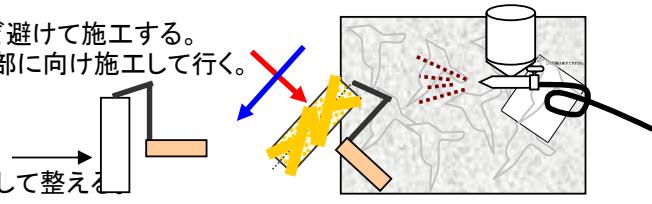
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を配り塗りする。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様配り塗り後、アヤメローラーで材料を引起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ② パターンは、特に希釈量やアヤメローラーの転がし角度などにより仕上がりが多少異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ 標準意匠は、ランダムに花の咲いたイメージの意匠。
- ⑥ 押えは、強く押え過ぎないようにする。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具****使用材料**

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け AP-1ローラー+押えローラー

● **標準施工仕様**

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考	
					工程内	工程間		
下塗り	キクスイ プライマー スーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等	
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ	
	清水	吹付け塗り						1~2kg
		コテ塗り						0~0.5kg
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ	
	清水	0~0.5kg						
パターン 付け	配り塗り後、AP-1ローラーで横方向に引起こし、 更に、塗シンを付けた押えローラーで、意匠形成 する。飾り目地を入れムラに見えない様にする。					追っかけ 模様付け	AP-1ローラー +押えローラー	
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後		
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護 養生をする。				-	24以上		

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。
コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

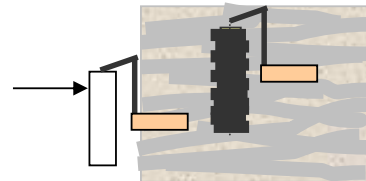
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。
なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を配り塗りする。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様配り塗り後AP-1ローラーで材料を引起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ②パターンは、特に希釈量やAP-1ローラーの転がしなどにより仕上がり感が多少異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。緩やかに転がすように、ローラーの使い方に注意する。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、横方向にほぼ平行に山脈様のローラーパターンを引起こし、さらに、尖り部を押えた意匠。
- ⑥壁全体の連続模様付けは避ける。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。
- ⑧意匠の連続仕様は特に困難であり、縦・横2m*2m以内で装飾目地を取る。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシガン又はコテ
 模様塗り リシガン又はコテ
 模様付け クリークローラー (リブ幅8mm)
 + 押えローラー

● **標準施工仕様**

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ
	清水	吹付け塗り コテ塗り					
模様塗り	グラナダF	20kg	1.6~1.8	1	-		リシガン 口径:6~8mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ
	清水						
パターン 付け	配り塗り後、クリークローラーで横方向に起こし、更に、塗シンを付けた押えローラーで、意匠形成する。継ぎをずらしてムラに見えない様にする。						追っかけ 模様付け + 押えローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。						直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。						24以上

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

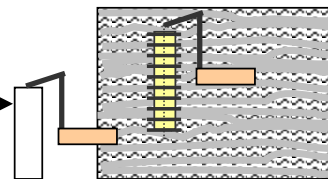
- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ① 出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ② 主材は定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③ 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸吹き放しで吹き付ける。

4. パターン付け

- ① パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様塗り後一旦クリークローラーで材料を起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ② パターンは、特に塗布量やクリークローラーの転がし重ね回数やランダムさなどにより仕上がりが感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。
- ③ 表面皮張りが早いので、直射日光など避けて施工する。
- ④ 模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤ クリークローラーは、横方向にほぼ平行にラインを起こし、且つ継ぎはランダムな位置で丁寧に行う。
- ⑥ クリークローラーは、時々水で洗い、水切して繰り返し使用する。
- ⑦ パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ② 施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③ 足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシンガン
 模様塗り リシンガン

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.6~0.7	1	-	6以上	リシンガン 口径:3~4mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	2~3kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	0.4~0.6	1	-		リシンガン 口径:4mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	1~2kg					
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-		直後又は 乾燥後
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上	

● **標準施工要領**

0. 注意点

- ① ゆず肌パターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に平滑であること。
- ② ゆず肌パターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に吸い込みムラのないこと。
- ③ ゆず肌パターンは特に薄塗り仕上げであり、乾燥が速いため、施工面積や、日光など考慮し、吹き継ぎムラがでないように施工する。
- ④ この意匠の用途としては、内壁を主とし、外部は軒天、アクセント使用程度とする。

1. 下塗り

- ① 下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ② 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ① 開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ② 主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③ 基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。できるだけ平滑に吹く。

3. 模様塗り

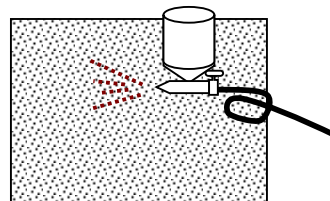
- ① 主材は定められた仕上りになるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ② 模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量をゆず肌調に吹き付ける。
- ③ 希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、フラットにならないように吹く。



+



均一攪拌



4. 養生撤去他

- ① 養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ② 外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。

Granada F ㊦フラット ほぼ平たんな仕上げ意匠。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシンガン
 模様塗り リシンガン

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.6~0.7	1	—	6以上	リシンガン 口径:3~4mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	2~3kg					
上層塗り	グラナダF	20kg	0.4~0.5	1	—		リシンガン 口径:3mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	2~3kg					
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				—	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				—	24以上	

● 標準施工要領

0. 注意点

- ①フラットパターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に平滑であること。
- ②フラットパターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に吸い込みムラのないこと。
- ③フラットパターンは特に薄塗り仕上げであり、乾燥が速いため、施工面積や、日光など考慮し、吹き継ぎムラがでないように施工する。
- ④この意匠の用途としては、内壁を主とし、外部は軒天、アクセント使用程度とする。

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。できるだけ平滑に吹く。
- ④フラットは、一度に多く吹き付けるとクレータ気味になるため、注意して施工する。

3. 上層塗り

- ①主材は定められた仕上りになるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ②上層塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を平滑に吹き付ける。
- ③希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、できるだけ平滑に吹く。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ②外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。

● **使用材料・使用器具**

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材1厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン
 模様塗り タイルガン

● **標準施工仕様**

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1～0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8～1.0	1	—	6以上	リシンガン 口径:4～6mm 吹圧:0.5～0.6MPa
	清水	1～2kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	1.4～1.6	1	—		タイルガン 口径:6～8mm 吹圧:0.5～0.6MPa
	専用骨材1厘	5kg					
	清水	0.4～0.8kg					
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				—	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				—	24以上	

● **標準施工要領**

0. 注意点

- ①プチパターンは薄塗り仕上げであり、下地は平滑であること。
- ②プチパターンは薄塗り仕上げであり、下地は吸い込みムラのないこと。
- ③プチパターンは薄塗り仕上げであり、乾燥が速いため、施工面積や、日光など考慮し、吹き継ぎムラがでないように施工する。

1. 下塗り

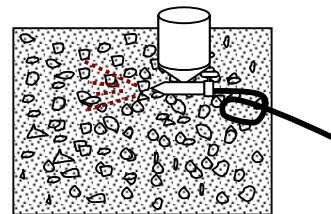
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。

3. 模様塗り

- ①主材は定められた仕上がりになるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ②模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を小～中玉吹き放し調に吹き付ける。
- ③希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ベタにならないように吹く。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ②外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ	15kg/缶
プライマースーパーE	
グラナダF	20kg/缶
専用骨材3厘	20kg/紙袋

使用器具

計量	秤
下塗り	エアレススプレー等
基層塗り	リシンガン
模様塗り	リシンガン

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	—	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	1~2kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	0.9~1.1	1	—		リシンガン 口径:6~8mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	専用骨材3厘	12kg					
	清水	2~3kg					
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。			—	—	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。			—	—	24以上	

● 標準施工要領

0. 注意点

- ①リシンパターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に平滑であること。
- ②リシンパターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に吸い込みムラのないこと。
- ③リシンパターンは特に薄塗り仕上げであり、乾燥が速いため、施工面積や、日光など考慮し、吹き継ぎムラがでないように施工する。
- ④この意匠の用途としては、外部主とする。

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシヤクなどを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付ける。できるだけ平滑に吹く。

3. 模様塗り

- ①主材は、定められた仕上りになるように指定された骨材と清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ②模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量をじゅらく調に吹き付ける。
- ③希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ゆず肌にならないように吹く。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ②外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 専用骨材1厘 20kg/紙袋

使用器具

計量 秤
 基層塗り リシガン
 模様塗り リシガン

● 標準施工仕様

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
					工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダF	20kg	0.6~0.7	1	—	6以上	リシガン 口径:3~4mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	清水	2~3kg					
模様塗り	グラナダF	20kg	0.5~0.7	1	—		リシガン 口径:4mm 吹圧:0.5~0.6MPa
	専用骨材1厘	10kg					
	清水	2~3kg					
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				—	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				—	24以上	

● 標準施工要領

0. 注意点

- ①じゅらくパターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に平滑であること。
- ②じゅらくパターンは特に薄塗り仕上げであり、下地は特に吸い込みムラのないこと。
- ③じゅらくパターンは特に薄塗り仕上げであり、乾燥が速いため、施工面積や、日光など考慮し、吹き継ぎムラがでないように施工する。
- ④この意匠の用途としては、内壁を主とし、外部は軒天、アクセント使用程度とする。

1. 下塗り

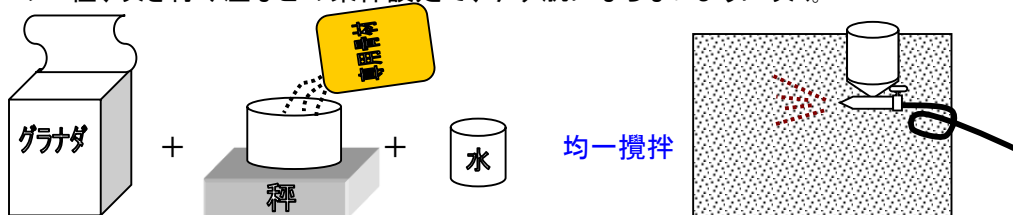
- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤や定量ヒシャクなどを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシガンで吹き付ける。できるだけ平滑に吹く。

3. 模様塗り

- ①主材は定められた仕上がりになるように指定された骨材と清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ②模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量をじゅらく調に吹き付ける。
- ③希釈、ガンの口径、吹き付け圧などの条件設定で、ゆず肌にならないように吹く。



4. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。
- ②外部施工で、施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。